

# レファレンスだより 2016年3月号 No.160

福岡市総合図書館 図書サービス課 相談係 ☎092-852-0632

図書館では、情報を求める利用者に対して、図書館の資料と機能を活用して調査のお手伝いをする「レファレンス・サービス」を提供しています。法律相談や物品鑑定などお答えできない質問もあります。「レファレンスだより」は、実際に寄せられた質問について、総合図書館が回答した事例の一部を紹介する情報誌です。

## ■レファレンス受付件数(2015年12月分)

参考	人文	社会	自然	郷土
19	1,509	320	227	529
国際	国連	こども	ポピュラー	合計
574	70	714	1,184	5,146

(開館日 23日 一日平均 224件)

## 今月の特集!

# 新幹線



2016年3月、北海道新幹線が開業予定です。

鹿児島中央駅から新函館北斗駅までつながる

“夢の超特急”、本のページをめくりながら

旅してみるのはいかかでしょう。

### 誕生当時にタイムスリップ

#### 『東海道新幹線 1964』

(交通新聞社 2014年) 総合図書館ほか

#### 『昭和三十九年の鉄道旅行

—新幹線、東京オリンピックを走る—

(ネコ・パブリッシング 2010年) 総合図書館

### 運転してみたい

#### 『新幹線を運転する』

(早田 森/著 メディアファクトリー

2011年) 総合図書館ほか

#### 『新幹線の運転—運転士が見た鉄道の舞台裏—』

(にわ あつし/著 ベストセラーズ 2010年)

総合図書館ほか

### 九州新幹線



#### 『HOMETOWN EXPRESS 「祝!九州」写真集』

(HOMETOWN EXPRESS 制作委員会/著

数井 啓介/[ほか]撮影 書肆侃侃房 2012年) 総合図書館ほか

3月12日に全線開業5周年を迎える九州新幹線。この写真集は開業記念のCMをまとめたもの。

沿線で手を振る人々を九州新幹線の車窓から撮影しています。

### 歴史をふり返る

#### 『新幹線 50年の時刻表

—時刻表でふりかえる新幹線のあゆみ—

上巻、下巻(交通新聞社 2014年) 分館

#### 『新幹線 50年の技術史

—高速鉄道の歩みと未来—

(曾根 悟/著 講談社 2014年) 総合図書館

#### 『新幹線 50年史』(交通協力会 2015年)

総合図書館

#### 『新幹線と日本の半世紀—1億人の新幹線—文化

の視点からその歴史を読む—』(近藤 正高/著

交通新聞社 2010年) 総合図書館

### 東海道新幹線をのんびり

#### 『世界最速「車窓案内」』

(今尾 恵介/著 新潮社 2014年) 総合図書館

#### 『東海道新幹線各駅停車の旅』

(甲斐 みのり/著 ウェッジ 2013年)

総合図書館



## こんな質問がありました！

Q：夏目漱石『虞美人草』の、発表当時の読者からの反響がわかる資料を見たい。（人文科学）

### ■事典類で調べる

『夏目漱石事典』（平岡 敏夫・山形 和美／編 勉誠出版 2000年）2階 C13 R910.26/4

『虞美人草』の項目で、その評価についても書かれているが、発表当時のものではない。

『漱石研究年表 増補改訂』（荒 正人／著 集英社 1984年）2階 C13 R910.26/7

『虞美人草』の新聞連載が終わった明治四十年（1907）の記述の中に、「藤岡作太郎宛手紙に『虞美人草』推賞の礼を述べる」など、関連する記述は見られる。

### ■「レファレンス協同データベース」で検索する

国立国会図書館 HP の「レファレンス協同データベース」に、『虞美人草』の「ブームが起きた様子」についての調査事例が登録されており、そこから、以下の資料に関連の記述があることがわかる。

『漱石全集 第4巻』（夏目 金之助／著 岩波書店 1994年）2階 B23 918.68/4

付属の「月報」に掲載の、大原富枝「私の漱石」や平岡敏夫「大森行き、藤尾の死」の中で、読者の反応について触れた部分がある。

『日本近代文学大事典 第2巻 人名』（日本近代文学館／編 講談社 1977年）2階 C13 R910.26/2

「夏目漱石」の項目で、漱石の最初の新聞小説『虞美人草』が、関連商品が売り出されるなど流行した様子が書かれている。

### ■インターネットの図書検索サイト“Webcat Plus”で検索する

「虞美人草 読者」のキーワードで検索すると、以下のような資料が見つかる。

『新聞小説の時代：メディア・読者・メロドラマ』（関 肇／著 新曜社 2007年）2階 B20 910.26/4

新聞小説というメディアと読者との関係を論じる中で、『虞美人草』を取り上げた章がある。

『漱石と三人の読者（講談社現代新書）』（石原 千秋／著 講談社 2004年）閉架書庫

「『虞美人草』の失敗」の章で、新聞連載時の時代背景に即して、漱石が意識した読者像や実際の読者の反応について述べている。

Q：最近「6次産業」とよく聞かすが、第4次、第5次は？

（社会科学）

### ■事典類を確認する

『日本の産業構造』（鈴木 多加史／著 中央経済社 1995年）2階 E11 602.1/3

『日本大百科全書10』（小学館 1994年）2階 C1 R031/2

『日本国勢図会 2015/16』（矢野恒太記念会 2015年）2階 C16 R351/2

第1次産業は農林業と漁業、第2次産業は鉱業、建設業、製造業など。第3次産業はその他の産業の3つに分類される。いずれも第4次、第5次については記載がない。

### ■インターネット

インターネットでも同様の質問があり、第4次、第5次もあるのではというあいまいな回答はある。さらに調査を進めると、農林水産省の消費者相談に「6次産業化」についての質問があり、「6次産業という言葉の6は、農林漁業本来の1次産業だけでなく、2次産業（工業・製造業）・3次産業（販売業・サービス業）を取り込むことから、1次産業の1×2次産業の2×3次産業の3のかけ算の6を意味しています」とある。またこの言葉は東京大学名誉教授の今村奈良臣（いまむら ならおみ）氏が提唱した造語ということが分かる。

### ■改めて事典類を確認する

『現代用語の基礎知識 2016』（自由国民社 2016年）2階 C1 R031/4

「6次産業化」の項目に同様の説明がある。

『有斐閣経済辞典 第5版』（金森 久雄・荒 憲治郎／編 有斐閣 2013年）2階 D6 R330.33/1

「第4次産業」のみ記載あり。現代は情報化社会といわれる。そのため伝統的な産業分類の第3次



産業からとくに情報産業を抜き出して、第4次産業と呼ぶことがあると説明がある。

Q：二十四節気はどうやって決めるのか。

(自然科学)

■二十四節気(にじゅうしせっき にじゅうよんせっき)とは

『こよみ事典 改訂新版』(川口 謙二・池田 孝/著 東京美術 1999年) 2階 E7 449.81/ㇿ

一年の長さを24等分し、それぞれに季節にふさわしい名称を与えたもの。立春、立夏、夏至、冬至など季節をあらわす24の用語。二十四気、二十四節ともよばれる、とあり。

■事典類で調べる

『暦の大事典』(岡田 芳朗/編者代表 朝倉書店 2014年) 2階 E1 R449.03/ㇿ

初期の中国暦では、平気法(1年を24分の1に等分し、それを冬至から累加していく方法)が用いられたが、春分・秋分・夏至が本当の日時と相違を生じる。隋代に周天を24等分した定気法が考案され、清代の時憲暦(じけんれき)から黄道を24等分する定気法が採用された。わが国では、天保暦から明治改暦まで用いられた。

『こよみ便利帳』(暦計算研究会/編 恒星社厚生閣 1983年) 2階 E1 R449.3/ㇿ

二十四節気は、現在は太陽の視黄経の値によって定義されているとあり。春分日、秋分日の計算式(実験式)の掲載がある。国民の祝日としての春分の日、秋分の日は、前年の2月1日付官報に発表。

■インターネット

国立天文台>一般の方向け>暦計算室ウェブサイト>用語解説>二十四節気

【<http://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi>】

二十四節気(にじゅうしせっき)は、1年の太陽の黄道上の動きを視黄経の15度ごとに24等分して決められている。同サイトの『二十四節気の定め方』には、平気法(恒気法/常気法)と定気法(実気法)の説明あり。



Q：緒方貞子さんについて書かれている資料が見たい。

(国連)

■所蔵雑誌

『UN chronicle 2015年9月号』(United Nations Office of Public Information 2015年) 2階国連 A3

国連広報局の季刊誌『UN chronicle』の国連創設70周年特集号。「人間の安全保障を求めて」と題した緒方氏の寄稿文を掲載。今後、人類のために国連をより良いものとするために何をしたらよいのか、国連難民高等弁務官として歴史に名を刻んだ緒方氏の、未来への歩みに向けたメッセージ(英語)。

■所蔵国連資料

『写真集「世界で働く日本人国連職員」: Photo book "Japanese UN staff in the world"』

(国際連合広報センター 2007年) 2階国連 A3 展示

冒頭に緒方氏のメッセージが掲載されている(日本語・英語)。

■所蔵国際資料

『The turbulent decade 1st ed. : confronting the refugee crises of the 1990s』

(Sadako Ogata/著 W.W. Norton 2005年) 閉架書庫

国連難民高等弁務官としての激動の10年を振り返り、今なお世界が直面する難民問題を考察する。

■インターネット

UNHCR The UN Refugee Agency (国連難民高等弁務官事務所)

【<http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/home>】>検索ボックスに「Sadako Ogata」と入力

高等弁務官在任時の緒方氏の関連資料や演説文などを見ることができる(英語)。

※「2階C1」などと表記しているものは総合図書館の棚番号です。また、「813.1」などと表記しているものは分類番号で、数字の左にRが付いている資料、郷土資料は貸出ができませんので、館内でご利用ください。本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



## 今月の一冊！

### 『さくら百科』

(永田 洋・浅田 信行／編 丸善 2010年) 2階E2 R479.75/4

種類や開花予測といった科学的なことから、信仰・詩歌といった文化的なこと、花の飾り方や菓子・料理への利用まで、桜についてのあらゆる事柄をまとめた1冊です。



使ってみました ⇒花見の発祥を調べる

巻末の索引で「花見」を引くと、「桜と文化」の項目にルーツについての記述を見つける。

\* 貴族の花見…奈良時代、貴族は中国伝来の“梅”の花を愛でる宴を行っていたが、平安時代になると日本土着の“桜”に代わっていった。

\* 農民の花見…春に酒や食べ物を持って近所の丘や山に登り、花のもとで1日を過ごす行事があった。冬の神を送り、田の神を招くための神事であった。



どちらの花見も「神事」「祝い事」「宴」でした。この2つの文化が結びつき、江戸時代に庶民の楽しみとして広く定着したそうです。

現代、私たちが楽しんでいる花見は、平安時代からの歴史をもつ、日本特有の文化だとわかります。



## 総合図書館 専門図書 新刊案内

新着本の一部を紹介します。読んでみたい本がありましたら、気軽にお尋ねください。

	書名	著者名	出版者	請求記号	タイトルコード
人文	地藏菩薩：地獄を救う路傍のほとけ	下泉 全暁／著	春秋社	186.8/シ	1000001419831
	つかこうへい正伝：1968-1982	長谷川 康夫／著	新潮社	912.6/ハ/	1000001417347
社会	21世紀の不平等	アンソニー・B.アトキンソン／著 山形 浩生／訳	東洋経済新報社	331.85/7/	1000001426185
	要約マンション判例170 新版	升田 純／著	学陽書房	365.31/マ/	1000001417526
自然	地底：地球深部探求の歴史	デイビッド・ホワイthouse／著 江口 あとか／訳	築地書館	450/ホ/	1000001428375
	世界の原発産業と日本の原発輸出	中野 洋一／著	明石書店	539.09/ナ/	1000001417387



## 特別整理期間のお知らせ

総合図書館は**3月7日(月)～14日(月)**まで“図書特別整理期間”として休館します。

行方不明となっている本はないか、間違った場所に置かれたままの本はないか等を、1冊1冊調べます。

皆さまには大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。